



園庭の草花がすくすくと育ち、初夏の日差しに青葉が輝いています。

今年度も保育コンシェルジュの二人が高砂市内の園や施設を駆け回り、実際に見て、体験して、感じたことを発信していきたいと思います。

令和6年度最初にご紹介するのは、4月1日にオープンしたばかりの西部子育て支援センターです。旧北部支援センターの老朽化に伴い、曽根地区に移設し、地域交流センターとの複合施設という形で開設されました。曽根天満宮に隣接する松原公園の目の前にある、黒くて大きな三角屋根が特徴の建物です。40台ほど止められる広い駐車場もありますが、山陽曽根駅からは徒歩5分程と立地条件もとても良いので、市内外問わずたくさんの方が利用されています。



はじめに施設内をご紹介します。玄関を入って進んでいくと、大きなガラス戸から明るい光が入りこむ開放的な市民ロビー、そして色々な用途で利用できる多目的ホールが続いています。訪問した日は、市民ロビーに、こどもの日に因んだ大きなこいのぼりのトンネルがあり、子どもたちが楽しそうに遊んでいました。1階は、他にもオープンルームとフリールームがあり、木のおままごとセットやすべり台、トンネルなどの遊具やおもちゃがあって、ここでも子どもたちは夢中になって遊んでいました。オープンルームを通りすぎた正面の出入口は、外の芝生ひろばへと繋がっています。その周りで犬の散歩をしている方を見かけました。既に地域の方のお散歩コースになっているようです。



2階へ上がると、広い調理室が目飛び込んできました。他にも会議室や授乳室、備蓄庫、休憩スペースそして和室が奥へと続いていました。料理サークルや子育てサークル、カラオケ、卓球、着付け教室、将棋大会など、利用方法は無限に広がりますね。



オープンしてからまだ間もないですが、1日約50人、多い日には90人程度の方が利用されています。休日も開いているので家族で利用する方も多く、お父さんとお母さんが仕事で忙しい時は、おばあちゃんとお孫さんで利用されている方もいるようです。お天気を気にすることなく、自由な時間帯に気軽に立ち寄り、快適に過ごせるのが室内施設の魅力ですね。また利用者は、曽根地域の方に限らず、以前北部子育て支援センターにいられていた方や加古川市、姫路市と近隣の市外からの利用者也増えています。これからの季節、隣接する松林で虫採りやまつぼっくり拾いなど、自然の中で思いっきり遊んだ後は、センターで水分補給をしてゆっくりするのもいいですね。



西部子育て支援センターの人気の事業で“時間のプレゼント”という一時預かり事業があります。高砂市内在住の1歳3カ月から就園前までのお子さんが対象です。1ヶ月2回、1年で6回まで利用できます。ボランティアさんと保育士でお子さんをお預かりします。事前に登録が必要となりますが、子育て中の保護者の方にとって“時間のプレゼント”は素敵なリフレッシュの時間になりますね。他にも誕生会やおはなし会、つどいの広場など、楽しそうな催しが開かれています。支援センターが毎月発行する“あ・そ・ぼ”を見てぜひ参加してみてくださいね。



この日は、西部子育て支援センターの開所記念事業《みんなで遊ぼう》が行われていました。男性保育士ユニット『かば☆うま』さんの親子ライブがあり、就園前のお子さんと保護者、地域の園の曾根こども園、こどものその保育園の年長児クラスも参加していました。

うまちゃんに促され、園の先生が舞台に上がると、園児たちから歓声が上がりました。元気いっぱいのうまちゃんに、会場中の赤ちゃんから大人までみんな笑顔になって歌って笑って踊って、全身で楽しみました。



西部子育て支援センターは、楽しく子育て出来るよう、子育てに関する情報や親子で交流できる機会を提供しています。また、保護者の方々にとっては、育児に関する相談に総合的に応じてくれる心強い施設でもあります。日々の子育てで悩んでいることや不安になることがあれば一緒に考えてくれる保育士が常駐していますので、気軽に相談してみてください。その悩みが自分だけではないと知り、気持ちが楽になるかもしれません。センターを利用する方からは「同世代のお母さんと集まって話しをしたり、お友達と遊んだりして、親子共にリフレッシュの時間になるのでよく利用しています。」という声も聞かれました。保育士やお友達と話し、いろいろな子育てスタイルを知ること、子育てのヒントに繋がることがありますね。



当施設の Mascot キャラクターは、『にこにこ』笑顔でお日様がいっぱいのもとに『あつまる』を合わせて『にこまる』といいます。今後、西部子育て支援センター、曾根地域交流センターは、『にこまる』のもと、たくさんの人が笑顔であつまる地域のコミュニティの場となっていくことでしょう。